

たかしょう

新任の先生と子どもたち



3月末の人事異動で高倉小学校に、11人の教職員が異動してきました。そのうち9人が20代です。その中でも3月まで大学生だったピカピカの新任の先生が4人着任されました。発行さ

れたばかりのピカピカの教員免許を見ながら、この時代によくぞ「教員」という仕事を選んでくれたものだと嬉しく思いました。夢を持ってこの仕事を選んでくださったのだから、学校としても「小学校の先生になってよかった」と実感していただきたい。でも、昔と違って今は、学級担任の仕事の内容の複雑さと業務量の多さが尋常ではないのでどんな優秀な人材が来ても先輩の先生方の支援がなければ学級担任など絶対できません。

他校では、最初の1年は学級担任をさせずに学年サポートなどの立場で仕事を覚えてもらい、次の年から学級担任をさせることが多いようです。それも1つの方法ですが、高倉小学校では、初年度から「学級担任」として活躍してもらうことにしています。「立場が人を育てる」という考え方です。

とはいえ、学級担任を任せただけからには、何が何でも成功してもらわなければなりません。子どもたちにとって「担任の先生」とは、保護者の次に人生のロールモデルとなる大人の見本です。「ああいう大人になりたいな」と思われる存在であってほしい。「新任だから…」「初めてなので…」などの言い訳は通用しません。20年以上のベテランも新任も子どもから見れば同じ「先生」だからです。

昨年は1人、2年前は新任の先生が3人着任されました。初年度から「学級担任」を任せ、まわりのサポートも得なが

らどの先生も立派にその責務を果たしました。今では、その4人はそれぞれ1年、4年、5年、6年の担任をしながら、今年の新任のペアアドバイザーとして業務を教えたり、授業を見てアドバイスしたりしています。4月時点での新任の先生は、やる気100%



能力は0%です。驚くほど何もできません。しかし、やる気だけは凄まじいパワーを持っていて、5月くらいにはその能力を50%、60%と勢いよくあげてきます。子どもと年齢が近い分、親しみやすいからなのか子どもたちからの人気は高く、ちょっとした外れの発問でも子どもの方が「先生の意図を必死で理解しようとする」ことにより、ベテラン先生に負けないぐらい授業が盛り上がるということがよくあります。授業の良し悪しはやはり子どものやる気で決まるのだと我々が思い知らされます。そうして1年が終わった時、1人の「一人前の教師」が誕生しています。次年度からは、1人でいたい何でもできるようになり、3年目にもなるともう学校にとってなくてはならない貴重な戦力になります。

では、高倉小学校は、なぜ新任の先生が初年度から学級担任ができるのか？それは一言でいうと「落ち着いた学校」だからです。子どもたちが優しい子が多い。保護者の方も寛容で自分の子がケガをしているのに「相手の子は大丈夫ですか？」と聞いてきます。加害側の保護者の方も「直接謝りたいから連絡先を教えてください」と言われます。地域の方も無償でオレンジ隊として毎日毎日辻立ちされている。地域行事のお手伝いに多数の方が参加されている。朝、校区巡視をしていると何人もの方から「ご苦労様です」と声をかけられます。私がオレンジ隊の方々にお礼のご挨拶に回っているのに逆にお礼を言われ励まされます。そんな高倉地域の皆様、保護者の皆様の温かい「情」があるから高倉小学校は落ち着いたのだと教職員に伝えていきます。そして、私たち教職員もその「情」にしっかり応えたいと強く思っています。令和8年度もどうぞよろしくお願いいたします。

